

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月5日

上場会社名 大阪工機株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3173 URL http://www.osk-k.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)柳川 重昌
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長兼経理部長 (氏名)林 祐介 (TEL)06 (6765) 8201
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	17,326	14.6	609	95.5	609	99.9	334	64.1
29年3月期第3四半期	15,118	△4.8	311	△45.2	304	△43.6	203	△30.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 370百万円(—%) 29年3月期第3四半期 △10百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	48.69	—
29年3月期第3四半期	29.66	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	13,409	4,879	36.2
29年3月期	13,222	4,632	34.8

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 4,847百万円 29年3月期 4,600百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
30年3月期	—	9.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	10.00	19.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	10.0	704	31.9	712	34.6	430	18.9	62.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期3Q	6,868,840株	29年3月期	6,868,840株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

30年3月期3Q	220株	29年3月期	220株
----------	------	--------	------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年3月期3Q	6,868,620株	29年3月期3Q	6,868,620株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期損益計算書関係)	8
(セグメント関係等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）における我が国経済は、設備投資や雇用情勢の改善などを背景に景気は回復基調で推移いたしました。

世界経済は地政学リスク等懸念材料はあるものの全体としては緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループの属する機械工具業界は、企業の旺盛な設備投資を背景に堅調に推移いたしました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、新商材の取扱いやテクニカルセンターの活用・海外の営業拠点拡充など企業成長のための取組みを積極的に展開しました。企業の旺盛な設備需要などの外的要因も影響し、当社を取り巻く環境は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は17,326,964千円（前年同四半期比14.6%増）、営業利益は609,093千円（前年同四半期比95.5%増）、経常利益は609,030千円（前年同四半期比99.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は334,448千円（前年同四半期比64.1%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①切削工具事業

切削工具事業につきましては、前年度に開設したテクニカルセンターが本格稼働しており、新規顧客の開拓や社員教育にも活用し、技術営業体制の強化に寄与いたしました。また、新ブランドのエンドミルの販売を開始するなど取扱製品の拡充にも努めました。

業績に関しましては、卸部門の業績は中小企業にも景気回復の成果が広がる中、主要取扱メーカーの販売強化施策などにより堅調に推移いたしました。直販部門においても、製造業の生産活動が活発に推移する中、当社の強みである提案営業を進めた結果、自動車、電機・電子、航空機業界など幅広い業界向けの販売が堅調に推移したことから、売上高及びセグメント利益は堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は11,110,906千円（前年同四半期比13.1%増）、セグメント利益は303,579千円（前年同四半期比186.5%増）となりました。

②耐摩工具事業

耐摩工具事業につきましては、国内製缶業界の主要企業の業績が堅調に推移する中、製缶メーカーの一部主要顧客向けの販売が前年同四半期と比較して増加したことなどから、売上高及びセグメント利益は堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は2,042,048千円（前年同四半期比10.1%増）、セグメント利益は211,320千円（前年同四半期比4.6%増）となりました。

③海外事業

海外事業につきましては、世界経済の景気回復拡大を背景に、中国やメキシコにおいて自動車業界向けの一部主要顧客に対する販売が前年同四半期と比較して増加したことなどから売上高及びセグメント利益は堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は3,369,544千円（前年同四半期比25.7%増）、セグメント利益は59,613千円（前年同四半期は33,825千円のセグメント損失）となりました。

④光製品事業

光製品事業につきましては、外観検査装置業界への光学機器等の販売等を推進したことにより売上高は前年並みの実績となったものの経費が増加したことからセグメント利益は低調に推移いたしました

この結果、売上高は804,465千円（前年同四半期比6.0%増）、セグメント利益は35,408千円（前年同四半期比15.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて203,169千円増加し、11,098,142千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が169,543千円、商品が121,045千円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて16,046千円減少し、2,311,636千円となりました。これは主にのれんの償却により、のれんが45,290千円、減価償却等により有形固定資産が22,447千円減少した一方で、投資その他の資産のその他が45,008千円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて187,123千円増加し、13,409,779千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて193,477千円増加し、7,526,332千円となりました。これは主に、短期借入金242,182千円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金96,007千円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて253,710千円減少し、1,004,080千円となりました。これは主に、長期借入金278,192千円減少したことなどによります。

この結果、負債は、前連結会計年度末に比べて60,233千円減少し、8,530,412千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて247,356千円増加し、4,879,366千円となりました。これは、利益剰余金が210,813千円（親会社株主に帰属する四半期純利益334,448千円、剰余金の配当123,635千円）増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては平成29年5月10日に公表いたしました数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,720,109	1,627,713
受取手形及び売掛金	4,888,928	5,058,471
商品	3,840,560	3,961,606
その他	486,594	492,697
貸倒引当金	△41,220	△42,346
流動資産合計	10,894,972	11,098,142
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	281,178	275,807
土地	892,438	891,806
その他(純額)	159,599	143,156
有形固定資産合計	1,333,217	1,310,769
無形固定資産		
のれん	85,779	40,488
その他	186,073	184,031
無形固定資産合計	271,853	224,520
投資その他の資産		
その他	748,820	793,829
貸倒引当金	△26,206	△17,482
投資その他の資産合計	722,613	776,346
固定資産合計	2,327,683	2,311,636
資産合計	13,222,656	13,409,779
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,638,179	4,665,472
短期借入金	1,646,818	1,889,000
1年内返済予定の長期借入金	511,472	415,465
未払法人税等	124,315	128,225
賞与引当金	153,142	87,386
役員賞与引当金	22,698	29,908
その他	236,228	310,875
流動負債合計	7,332,855	7,526,332
固定負債		
長期借入金	821,181	542,989
役員退職慰労引当金	184,839	189,488
退職給付に係る負債	238,412	256,884
その他	13,357	14,718
固定負債合計	1,257,790	1,004,080
負債合計	8,590,646	8,530,412

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	350,198	350,198
資本剰余金	330,198	330,198
利益剰余金	3,818,926	4,029,739
自己株式	△118	△118
株主資本合計	4,499,204	4,710,017
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46,415	65,817
為替換算調整勘定	55,290	71,817
その他の包括利益累計額合計	101,706	137,634
非支配株主持分	31,099	31,714
純資産合計	4,632,010	4,879,366
負債純資産合計	13,222,656	13,409,779

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	15,118,412	17,326,964
売上原価	12,094,900	13,808,815
売上総利益	3,023,512	3,518,149
販売費及び一般管理費	2,712,029	2,909,055
営業利益	311,483	609,093
営業外収益		
受取利息	771	999
受取配当金	2,661	3,312
仕入割引	39,683	41,958
補助金収入	—	7,905
その他	8,034	12,276
営業外収益合計	51,152	66,452
営業外費用		
支払利息	13,734	13,658
売上割引	18,782	29,076
為替差損	11,496	11,214
その他	13,966	12,565
営業外費用合計	57,979	66,516
経常利益	304,655	609,030
特別利益		
固定資産売却益	※1 89,471	—
特別利益合計	89,471	—
特別損失		
減損損失	※2 47,294	—
特別損失合計	47,294	—
税金等調整前四半期純利益	346,832	609,030
法人税、住民税及び事業税	121,550	263,299
法人税等調整額	19,026	10,388
法人税等合計	140,577	273,688
四半期純利益	206,254	335,342
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,487	893
親会社株主に帰属する四半期純利益	203,767	334,448

四半期連結包括利益計算書
第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	206,254	335,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,693	19,401
為替換算調整勘定	△240,869	16,248
その他の包括利益合計	△217,175	35,649
四半期包括利益	△10,921	370,991
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,932	370,376
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,988	614

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
建物及び構築物	△30,134千円	－千円
土地	119,606千円	－千円
計	89,471千円	－千円

(注) 同一物件の売却により発生した建物及び構築物の売却損と土地売却益は相殺して、連結損益計算書上では固定資産売却益として表示しております。

※2 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失(千円)
広島県大竹市	倉庫	土地	24,694
		建物	1,100
広島県広島市中区	事務所	建物	21,499

当社グループは、事業用資産については原則として営業エリア毎に、遊休資産については物件単位毎にグルーピングを実施しております。

上記資産グループについては、売却を決議したことにより引渡し時点での損失発生が見込まれたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、売却予定価額に基づき算定しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業			
売上高							
外部顧客への売上高	9,824,124	1,854,748	2,680,569	758,970	15,118,412	—	15,118,412
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,070	—	11,858	—	23,929	△23,929	—
計	9,836,194	1,854,748	2,692,428	758,970	15,142,342	△23,929	15,118,412
セグメント利益 又は損失(△)	105,950	202,088	△33,825	41,705	315,918	△4,435	311,483

(注)1 セグメント利益の調整額△4,435千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

大竹倉庫及び広島支店の売却を決議したことに伴い回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、報告セグメントに含まれない全社資産の減損損失を認識するに至りました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては47,294千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業			
売上高							
外部顧客への売上高	11,110,906	2,042,048	3,369,544	804,465	17,326,964	—	17,326,964
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,757	—	13,353	—	22,111	△22,111	—
計	11,119,664	2,042,048	3,382,897	804,465	17,349,075	△22,111	17,326,964
セグメント利益	303,579	211,320	59,613	35,408	609,922	△828	609,093

(注)1 セグメント利益の調整額△828千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。